

評価結果概要表

作成日 平成 21 年 12 月 24 日

【評価実施概要】

事業所番号	秋田県知事指定第 0572608974号
法人名	社会福祉法人 県南ふくし会
事業所名	ピアホームかたくりの里
所在地	仙北市西木町桜木内字高屋91-1 (電話) 0187-58-2066
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会
所在地	秋田市旭北栄町1-5
訪問調査日	平成21年11月11日

【情報提供票より】 (平成21年12月24日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 11 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 (常勤 7 人 非常勤 常勤換算 7 人)

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1 階建ての ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	□有()円 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	□有()円 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	□有 / □無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	350 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 82 歳	最低 59 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	仙北市立角館総合病院
---------	------------

【外部評価で確認された事業所の特徴】

地域で暮らす一人ひとりに安心と安らぎ、信頼を提供することを理念として掲げ、様々な機会で見学や職員の理念の理解と共有に努めている。
そのため、職員は利用者の笑顔を見るのが嬉しい、ゆっくりした時間の中で介護できることが事業所の魅力だと捉え、自宅への一時帰宅など地域での生活継続の視点で支援している。
また、利用者の行動パターンを観察してグラフ化し、問題行動の時間帯や根拠を把握してケアに反映させるなど個別に対応している。
事業所は母体特養施設に隣接し、地域の診療所や社会福祉協議会、警察や消防など関係機関の協力が得られ、運営推進会議の結果を家族や行政等に報告するなど、地域に開かれた事業所をめざしており、今後のさらなる取り組みが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	母体特養施設の看護師による医療連携体制の確保や積極的な外出支援、緊急災害時における地域住民の協力体制の確立など、前回評価結果を受けて改善につなげている。 また、利用者の問題行動をグラフで表すことでの的確な対応や把握につなげるなど、自己評価の中から具体的な取り組みに反映させている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が評価の意義や有効活用について理解しており、職員一人ひとりが自己評価を行い、それを全体で検討したうえで管理者がまとめている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	委員からの意見をを受けて新型インフルエンザ感染予防対策や感染時の対応などを検討し、マスクや手洗い、うがいの励行、予防注射などの実施につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	手紙や電話で家族の意見を聴き取り、介護計画見直し時や面会時などのほか、運営推進会議やケアカンファレンスにも家族が参加しているため、意見や要望があればケアに反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営推進会議や防災訓練に地域住民が参加し、野菜や山菜の差し入れなどもあり事業所への理解と協力が得られている。 また、地域の婦人会が母体特養施設でコーヒーショップを開き、夏祭りなどの行事を通じて地域の方と関わるなど、母体施設と一体となって地域の理解と交流を深めている。

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営									
1. 理念と共有									
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	県南ふくし会、ピアホームかたくりの里独自の理念や事業方針があり、ご入居者、ご家族へ説明している。			地域で暮らす一人ひとりに安心と安らぎ、信頼を提供することを法人の理念として掲げ、それに基づいて事業所を運営し、利用者及び家族に説明している。	○	法人の理念に沿って地域密着型事業所として独自の表現で理念を検討し、日々の取り組みや事業所の方針を明確にしてほしい。	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日常的に申し送りや連絡ノート、スタッフ会議等をおして、理念や事業方針の確認を行っている。また、目のつくところに掲示し、いつでも確認できるようにしている。			法人理念並びに方針をホールに掲示し、年1回の理事長による理念の確認のほか、職員会議や日常の中でも随時に理念を確認して共有を図っている。	○	職員はもちろんのこと、利用者及び家族のほか、地域の方でも理解できるよう理念の掲示方法を工夫してほしい。	
	3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には面会時や家族通信等を通じて、また、地域の方々には運営推進会議や行事等を通じて理解を働きかけている。						
2. 地域との支えあい									
	4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	季節の花を植えて温かい雰囲気作りを行っている。また、散歩などに訪れた地域の方々にご入居者と一緒に声をかけ、挨拶等を行っている。	○	こちらから出かける機会はなるべく作っているが、近所の方々がホームに来て頂くことはまだ少ない状況である。行事等がなくても気軽に立ち寄って頂けるよう努めていく。				
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くにある保育園、小中学校の行事（運動会や文化祭等）に参加し、地域の方々との交流を行っている。ご利用者のADLの低下や認知症状の重度化により、外出の機会が減って来ている。	○	地域活動や行事等にも出来る限り参加し、もっと地域の方々と交流できるように努めていきたい。同法人内の事業所とも連携し、外出や交流の機会を作っていく。	○	小学校の運動会に出かけたり、隣接する特養施設の夏祭り行事などに地域の方々と共に参加するなど、母体施設と連携しながら地域との交流に努めている。また、地域の婦人会が母体特養施設でコーヒーショップを開くため、利用者が足を運んで交流している。	○	前回評価結果で事業所独自の交流を課題としているが、地域性もあり実現できていないため、町内会への加入や利用者一人ひとりの地域との関係継続に向けて、地域との関わり方を検討してほしい。
	6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議などの際に地域の方々から地域の現状等を伺い、話し合っている。	○	実際に地域の高齢者等に貢献できるような取り組みはまだ行っていない。今後も話し合い、検討していく。				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用									
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価は、ケアの質の向上や事業所をよりよくし地域やご家族ほか、色々な方々にアピールできるチャンスととらえ、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。また、事業所を客観的にとらえることで初心に戻り考えさせられることもあるため、大切にしていきたい。			全職員がそれぞれに自己評価を行い、職員間で話し合いながら管理者がまとめており、今後のケアや実践に結びつける機会と捉えている。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での日頃の活動やヒヤリハット、事故報告、受診状況、介護度状況、入居申し込み者状況、研修報告、外部評価や実地指導等の報告、情報交換等を行い、委員の皆さまから意見を頂き、サービスの向上に活かしている。			運営推進会議では行事の実施状況や感染症対策、運営面の取り組みについて報告し、意見交換や情報交換を行いながら実践につなげている。 また、「運営推進会議だより」を各委員に配布し、内容の共有化を図っている。	○	運営推進会議に外部評価結果を報告し、課題に対する今後の取り組みや方向性について意見を求めるなど、会議の機能充実によりサービスの向上につなげてほしい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での交流の機会が少ない状況である。市町村で行われる研修等には積極的に参加し情報交換やサービスの質の向上に努めている。	○	今後も運営推進会議以外の場での交流に努めていく。	行政主催の研修参加のほか、利用者や事業所運営など必要に応じて行政や関係機関と連絡を取り、情報の共有に努めている。 また、「運営推進会議だより」を介護保険事務所に送付し、会議の内容を報告している。	○	前回評価結果で行政との連携を課題としており、事業所も関わる機会が少ないと認識しているため、認知症サポーターの養成に携るなど、行政や地域包括支援センター等と連携しながら効果的な運営及びサービス提供につなげてほしい。
	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修や資格取得等で学ぶ機会があるが実際には活用する場面は見られていない。	○	実際に活用する場面はまだ見られていないが、権利擁護に関する制度等について、制度を理解するだけでなく、いつでも活用できるようにしていきたい。職員の理解も深められるよう研修等に参加していく。			
	11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について、資格取得や講習会等様々な場面で学んだり、マニュアル等を作成し、虐待防止に努めている。					
4. 理念を実践するための体制								
	12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退去の際は、ご家族やご利用者の話をよく聞き、十分説明し納得、了解を得た上で、契約や解約等行っている。					
	13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口として開設者及び管理者のほか、同敷地内に併設する事業所で共同の第三者委員を設置している。また、行政機関やその他苦情受付機関として介護保険事務所、国保連、市町村もあることをご説明し、ホーム内にも掲示している。また、ご家族、ご利用者からの意見や要望等はその都度話し合いの機会を設け、運営やケアに反映させている。					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話にて随時ご報告している。また、毎月ご家族へ「家族通信」を送付しており、写真等も添付しご利用者の生活状況がよくわかるようにしている。また、小口現金出納簿については毎月検収を行い、ご家族からも検収をして頂いている。			毎月「家族通信」を発行し、利用者一人ひとりの暮らしぶりを写真と併せて報告しているほか、金銭管理状況や職員の異動なども知らせている。 また、「運営推進会議だより」も送付し、会議の役割や機能の認識に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付窓口として開設者及び管理者のほか、同敷地内に併設する事業所で共同の第三者委員を設置している。また、行政機関やその他苦情受付機関として介護保険事務所、国保連、市町村もあることをご説明し、ホーム内にも掲示している。また、ご家族、ご利用者からの意見や要望等はその都度話し合いの機会を設け、運営やケアに反映させている。			面会時や行事参加時に家族の意見や要望を確認し、運営推進会議やケアカンファレンスに家族が参加しており、意見があればケアに反映するよう努めている。 また、家族への手紙や電話でも意向や要望の集約に努め、法人内に第三者委員を設置して苦情相談体制を整えている。	○	前回評価でも家族の潜在的なニーズの把握を課題としているため、些細なことでも苦情として捉えたり、意向調査などで意見や要望を引き出すための方策を検討し、そこからサービスの向上につなげてほしい。
	16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に申し送りや連絡ノート、その他様々な場面で意見や提案を聞いている。また、スタッフ会議等とおして、職員一人一人の意見や思いを聞き、運営やケアに反映させている。					
	17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その時々々の状況に合わせて、柔軟に勤務調整を行っている。また、緊急時には同敷地内に併設する特別養護老人ホームの支援を受ける体制を整備している。					
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動がある場合は、ご利用者、ご家族によく説明し、少しでも早くご利用者に馴染んでいただけるよう職員全体で配慮している。			母体特養施設との異動があるが、普段から行事などで利用者や職員が関わり馴染みの関係を築いている。 また、異動や離職時には1か月前から利用者へ伝え、互いに関わりながら引き継ぎし、利用者への影響を最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援								
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得や施設内外への研修の参加に意欲的に取り組んでいる。また、研修の内容については参加した職員が、申し送りや連絡ノート、スタッフ会議等を通じて他の職員へも伝達している。			職員が職種や経験等に応じて研修に参加し、資格取得者への一時金や昇格、昇給など職員の処遇に反映させている。 また、法人独自で昇格試験を実施し、職員の育成と意欲向上に努めている。	○	全職員が計画的に研修を受講しており、前回評価でも課題としているため、事業所の方針や職員の希望、目標などを取り入れた研修計画を策定し、今後の段階的なスキルアップにつなげてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大曲仙北グループホーム連絡会等に参加し、情報交換や研修等行っている。	○	現在は研修やグループホーム連絡会等でのみの交流しかないため、近く他グループホーム等と日常的に交流できるよう検討していく。	圏域の連絡協議会に加入しており、管理者のほか職種毎に交流する機会を設けて情報交換しているほか、他事業所の職員による見学を受け入れている。	○	前回評価で課題としていた事業所間の連携について、職員同士が互いに訪問して交流する機会をつくり、その経験を事業所の実践に生かすなど、活用可能なネットワークづくりに取り組んでほしい。
	21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人で行動計画を策定し、仕事と生活の両立に配慮した職員全員が働きやすい職場環境をつくることより、すべての職員がその能力を十分に発揮できるように取り組んでいる。また、スタッフ会議を行い職員間での意見交換の機会を設けている。					
	22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常に現場に目を向け、現場を把握し、向上心をもって仕事に取り組めるようスタッフに言葉掛けをしている。また資格取得による特別昇給や学習評価手当の制度も整備されている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応								
	23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みや相談の際に十分にお話を聞き、対応している。					
	24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込みや相談の際に十分にお話を聞き、対応している。					
	25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みや相談の際に十分にお話を聞き、その時必要としている支援を見極め、必要に応じ他のサービスを紹介するなど適切な対応を行っている。					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	入居にあたってはご本人、ご家族の要望等を十分に聞き、事前に見学に来ていただくなど、雰囲気に馴染みやすいよう工夫している。				利用希望時には自宅を訪問して本人の状況や家族の意向を確認して説明しているほか、事業所を見学して雰囲気を体感してもらい、安心して利用につながるよう配慮している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援								
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活するものとして、喜びや楽しみ、悩み等を分かち合い、ご利用者の能力を活かせるような援助を心がけている。	○	日常の業務にとらわれすぎず、ご利用者のペースを大切にし、「介護される側」という一方的な立場に置かれることがないよう今後も取り組んでいく。		料理の味付けや洗濯物たたみなど、普段の生活の中で利用者の知恵や経験を教わり、公文の問題を解く「学習会」では共に教え合っている。	
	28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会時や電話にてこまめに情報交換している。ご家族とスタッフとが一緒に考え、お互いの意見を話し合い、ご利用者を支えていく関係を築いている。					
	29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	面会時やその他様々な場面で、ご本人とご家族のこれまでの生活等をご本人やご家族に配慮しながら伺っている。かたくりの里に入居したことによってご家族との関係も良くなった例もあり、今後もご利用者本人とご家族がよりよい関係が築いていけるよう援助していく。					
	30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との関わりを大切にし、帰宅や自宅周辺への外出も行っている。また、昔から行っていた美容院で散髪するなど、馴染みの関係がとぎれないよう援助している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価			
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
	31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ほとんどの方が日中リビングで過ごされ、自然にご利用者同士の会話や助け合いなどの良い関係が築かれている。また、ご利用者同士のトラブルには迅速に対応し、関係が悪くならないよう援助している。						
	32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他のサービスの紹介や介護に関する知識、情報提供などを行い、契約解除後も付き合いが保てるよう努めている。						
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント									
1. 一人ひとりの把握									
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の普段の生活状況をよく観察し、希望や意向、ご本人がどのような生活を望んでいるか等を把握している。また、それらをケアプランに反映し、援助している。				学習会やティータイムなどに利用者と職員がよく話し、その中から一人ひとりの思いを把握するよう努めている。 また、利用者の行動パターンをグラフ化し、そこから問題行動の時間帯を把握するなど工夫している。		
	34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人からのお話をよく聞き、把握に努めている。						
	35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中、夜間の状態など、ご利用者一人一人の様子をよく把握し、記録している。また小さな変化（体調や精神面）等も見逃さず、対応している。またそれらも記録し、職員全員が把握できるようにしている。						
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し									
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望等を聞き、必要に応じかかりつけ医、専門医等の意見を頂くなどケアプランを作成して援助している。				利用者及び家族の意向や要望を確認し、ケアカンファレンスで意見やアイデアを出し合いながら介護計画を作成している。 また、センター方式の24時間生活シートで利用者の行動パターンを観察し、その結果をグラフ化することで問題行動の根拠と時間帯を把握して介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランの見直しについては期間内に実施し、ご本人の変化や要望等あれば随時プランを変更して対応している。				定期的なモニタリングにより3か月毎に計画を見直しているほか、利用者の状態に変化があれば、詳細な生活記録やデータを基にケアカンファレンスで検討のうえ見直しにつなげている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録、業務日誌等に詳しく記録し、また、スタッフ間で連絡ノートを活用し、確実な申し送りを行っている。					
3. 多機能性を活かした柔軟な支援								
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同敷地内に特別養護老人ホーム、短期入所、通所介護、訪問介護、居宅介護支援事業所を併設しているため、必要に応じ情報を提供し、柔軟な支援に努めている。			母体特養施設の看護師による健康管理や栄養士による栄養指導など、併設している機能を生かして連携している。 また、買い物や外出、通院時など柔軟に支援しており、家族のニーズに応じている。	○	今ある事業所の機能を十分に発揮し、介護教室や認知症に関する勉強会を開催するなど、地域ニーズに対応できる企画の検討を期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働								
	40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	地域の学校や保育園の行事に参加するなど、子供たちとの交流を積極的に行っている。また、ご利用者の安全に配慮し、地域の警察、消防からも協力を頂いている。					
	41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の居宅介護支援事業所や他の事業所と情報交換し、他のサービスを利用する際は円滑に進むよう援助している。					
	42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターが主催する「ケアスタッフ会議」等に参加し、研修や情報交換を行っている。					
18	43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	西明寺診療所、にしき歯科クリニック、西木町調剤薬局と連携し、適切な医療を受けられるよう援助している。また、緊急時には協力病院である仙北市立角館総合病院にて対応していただく体制を整備している。			地域の診療所が利用者のかかりつけ医と協力医になっており、受診や往診のほか、緊急時には電話で指導を受ける協力体制ができている。 また、歯科医への受診や看護師の協力、総合病院との連携など医療体制の充実に努めている。		
	44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に気軽に相談でき、専門医の受診等も行えるよう支援している。					
	45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同敷地内に併設している特別養護老人ホームの看護師に相談でき、アドバイスをいただきながら支援できる体制を整備している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先の医師や看護師、ケースワーカー等と情報交換を行い、入院中でもご家族と連絡をとり、安心して過ごせるよう援助している。					
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族やご本人の意向を伺い、医師や関係者と今後の状態やケアについて十分に話し合い、ケア方針を共有している。			前回評価で課題としていた看取りについて、現在希望する方はいないが、母体特養施設のマニュアル等を参考にし、医師の指導も仰ぎながら事業所での看取りについて将来的な可能性を検討している。		
	48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師からの意見や診断をもとに、事業所として「できること・できないこと」をはっきりと見極め、今後のケア内容についてご家族と事業所が納得のいくように話し合い、了承を得てケアにあたっている。					
	49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	スムーズな住み替えが行えるよう、ケア関係者との情報交換を十分に行っている。また、住み替え後も連絡を取り合い、必要に応じ情報交換に努めている。					
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
1. その人らしい暮らしの支援								
(1) 一人ひとりの尊重								
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録については施錠できる書庫に保管している。また、自尊心に配慮した声かけ、対応に努めている。	○	一緒に生活するものとして、また、人生の先輩としての尊敬の気持ちを忘れず、今後も自尊心に配慮した声かけや対応を行っていく。	職員は利用者一人ひとりの個性や性格などを理解し、親しみを込めて家族のように接している。また、個人ファイルはキャビネットに施錠して保管し、個人情報保護に努めている。	○	脱衣所のすりガラスにより着替えの状況が外部者に見えることも考えられるため、利用者のシルエットが見えないよう衝立やカーテン、ガラスを一部分にするなど工夫してほしい。
	51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ケアの際には声かけを行い、ご本人の希望や思いに耳を傾け、混乱しないようご本人が納得する形で援助している。また、自尊心に配慮した声かけ、対応を行っている。	○	今後もご本人が納得できるような形で支援していくことを心がける。			
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者、ひとりひとりの生活パターンを把握し、ご本人の希望に合わせ、また、その時々状況や気分に合わせて過ごせるよう援助している。	○	今後も日々の業務にとらわれず、ご利用者ひとりひとりの希望やペースに合わせて援助できるように取り組んでいく。	事業所で特別な日課は設けず、利用者一人ひとりの希望に沿った生活支援を心がけ、テレビをみたり、会話を楽しむ方など自由に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援								
	53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人と一緒にその日着る服を選んだり、日常的に鏡を見ることができ、ご本人自身も身だしなみを意識できるよう援助している。また、馴染みの美容院を利用できるよう援助している。					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の好むものや昔食べた懐かしいもの、季節のものなどをメニューに取り入れ、調理や下ごしらえ、後片付けなどをご利用者とスタッフが協力して行っている。			献立は利用者の意向を取り入れて職員間で考え、母体特養施設の栄養士が点検しており、パン食でも希望によりご飯を炊くなど柔軟に対応している。 また、季節や旬の食材を追加したり、少人数で外食に出かけるなど、食事を楽しめるよう工夫している。		
	55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物などは、ひとりひとりに声をかけ、選べるように援助している。					
	56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	ご利用者の排泄パターンを把握し、誘導や介助が必要な方には自尊心に配慮した声かけ、対応を行っている。					
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在入居されている方々は、自ら入浴を希望される方はほとんどおらず、スタッフが声をかけ、入浴を援助している。その日の気分や健康状態に合わせて、入浴を援助している。	○	入浴がおっくうと感じるご利用者もおり、入浴が気持ちよく楽しめるようご家族からの協力も得ながら対応している。	入浴の時間帯を決めてはいるが、希望があれば毎日でも夜間でも対応し、最低でも週2回は入浴するよう促している。 入浴を拒む方には声かけや家族からの電話などで促し、シャワーや足浴、清拭などで清潔保持に努めている。 また、利用者の希望に応じて近くの温泉に出かけたり、同性介助で対応するなど柔軟に支援している。		
	58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者ひとりひとりの生活パターンを把握しながら、夜間よく眠れるよう、日中の活動援助等行っている。日中もご本人の希望やタイミングで休息できるよう支援している。昼夜逆転もなく、全ご利用者の生活リズムが整っている。					
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援								
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブや外出援助、行事、畑など、生活歴やできる能力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援が出来るよう努めている。	○	ひとりひとりの希望や生活歴等をよく把握し、それぞれが役割や楽しみを持ち、張り合いのある生き生きとした生活ができるよう援助していく。また、ご本人やご家族、職員と一緒に話し合い、積極的に取り組めるようにしていく。	畑の収穫や料理、掃除、洗濯物たたみなど、普段から役割を持って生活している。 また、歌やおしゃべり、公文を解くのを楽しんだり、少年野球の試合見学や花見、行事時にお酒を飲む方など思い思いに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
	60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金について不安や要望があった際には、スタッフが説明したり、一緒に確認するなど、ご本人が納得でき、不安のないように援助している。					
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブや外出援助、行事、畑など、それぞれの希望に合わせて援助できるように努めている。	○	ひとりひとりの要望等をよく把握し、生き生きとした生活ができるよう援助していく。また、ご本人やご家族、職員と一緒に話し合い、相互に協力しながら積極的に取り組めるようにしていく。同法人の他事業所とも連携しながら援助していく。	地域の商店への買い物、散歩や理髪店に出かけられているほか、花見や紅葉、地域のイベント参加、ドライブなど外出の機会を多くつくっている。また、地域の方が多いため、自宅に帰りたい時に少しの時間でも自宅に連れて行くなど支援している。		
	62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節を感じられるような外出の計画を立て、他のご利用者や職員と一緒に出かけられる機会を作り、支援している。	○	ひとりひとりの要望等をよく把握し、生き生きとした生活ができるよう援助していく。また、ご本人やご家族、職員と一緒に話し合い、相互に協力しながら積極的に取り組めるようにしていく。			
	63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などで会話が出来るよう援助している。					
	64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会などが気軽に出来るよう、花や植物を植え、温かい雰囲気作りに努めている。また、面会の際には近況を報告し、一緒にお茶を飲んだり、ゆつくりと過ごすことが出来るようにしている。					
(4) 安心と安全を支える支援								
	65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資格取得や研修等で身体拘束をしないケアについて学び、マニュアルを作成している。また、運営規程、重要事項説明書に明記し、身体拘束禁止に取り組んでいる。					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	職員は身体拘束や抑制禁止についてきちんと理解しており、鍵をかけないケアを行っている。			玄関を開放し、事業所周辺の危険箇所を把握しており、利用者の外出時には職員が必ず付き添いながら見守りしている。	○	前回評価結果で課題としており、周辺の国道や土手で事故につながる事態も考えられるため、引き続き町内会の加入と併せて地域に働きかけ、地域全体で利用者を見守る体制づくりに努めてほしい。
	67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間のコミュニケーション、申し送りを十分に行い、ご利用者の所在確認、安全確認を行っている。	○	職員間の申し送りを十分に行い、所在確認、安全確認に努めていく。			

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ご本人のできる能力に応じ、職員が見守りや付き添い、介助によって安全に過ごせるよう援助している。環境コーディネイトはご利用者の状態に合わせて、検討や配置替え等を行っている。	○	各居室内については、ご家族とも話し合いながら、安全としつらえ、雰囲気とも大切に検討していく。			
	69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを作成し、緊急時や急変時に迅速に対応できるようにしている。また、日常的に申し送りや連絡ノートなどで職員の意識を高め、事故防止に努めている。					
	70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	防火避難訓練の際に救急救命講習を受講している。また、外部の研修等にも積極的に参加し、いざという時に実践できるようにしている。					
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回防火避難訓練を行い、日中、夜間を想定し、ご利用者、職員全員が参加し実施している。また、地域の方々からも協力を得られるよう働きかけている。			前回評価結果を受けて年2回の防災訓練には地域住民の参加を得て実施しており、避難した利用者の見守りを担当するなど役割も明確にしている。 また、居室にスプリンクラーを設置しているが、今後はホールへの設置も検討している。		
	72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時や状態報告の際に、リスクについて説明し理解を得ている。					
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援								
	73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ひとりひとりの日々の状態を把握し、体調の変化や異変の早期発見に努め、迅速に対応している。					
	74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や効果、副作用、用法や用量などをよく把握し、いつでも確認できるようにしている。また、必要時はかかりつけ医や薬剤師に相談できる環境である。					
	75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく便秘しないよう、食事の献立の工夫や十分な水分摂取、体を動かす援助などを行っている。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後や就寝前、起床後の口腔ケアを支援している。					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は同敷地内に併設している特別養護老人ホームの栄養士にアドバイスをいただき、栄養バランスの取れた食事になるよう配慮している。また、食事量、水分量を把握し、必要に応じ、補食や水分補給ができるよう支援している。			利用者の体調を観察し、チェック項目に従って水分や食事、排泄、バイタルの状況を記録し、栄養摂取や水分補給など適切な健康管理に努めている。 また、母体特養施設の栄養士からアドバイスをもらい、栄養バランスが偏らないよう配慮している。		
	78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、感染症に対する知識、予防や対応を行っている。また、施設内外の研修にも積極的に参加している。					
	79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日常的に台所や調理器具の消毒や清潔保持に努め、食材も新鮮で安全なものを使用している。					
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり								
(1) 居心地のよい環境づくり								
	80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花や植物を植え、温かい雰囲気作りに努めている。また、近くに動物もおり、近所の人たちや保育園の子供たちが気軽に遊びに来れるようになっている。					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や季節の花を置くなど、温かい雰囲気作りに努めている。また、不快な臭いがないよう防臭や衛生管理に努めている。			リビングは吹き抜けで採光がよく、対面式のダイニングや掘りごたつのある和室など簡素で落ち着いた空間となっている。 また、廊下には小休憩所を設け、全館冷暖房完備で快適な生活環境を整えている。	○	全体的に緑や装飾品が少ないため生活感が乏しい印象を受けるため、家庭的な雰囲気づくりについて検討してほしい。 また、玄関へのスロープ設置を検討しているため、早めの実現により利用者の安全確保に努めてほしい。
	82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやダイニングテーブル、掘りごたつなどがあり、ひとりひとりが思い思いに過ごせるように支援している。					

外部評価	自己評価	項目	自己評価			外部評価		
			取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と話し合いながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、また、それらの位置も馴染みのあるものになるよう工夫している。			居室には備え付けの収納タンスやベッド、寝具、椅子や茶箆箆などを持ち込み、カレンダーや時計、写真などを飾り個性的な居室空間をつくっている。 また、希望により夫婦での利用に対応するための夫婦用の居室も整備している。		
	84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各々の居室で温度調節ができ、ご利用者に合わせてこまめに調節を行っている。また、時々換気も行い、外の空気に触れることができるようにしている。					
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり								
	85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレや廊下などには手すりを設置し、安全に、また自分でできるところは自分でやれるような支援をしている。掘りごたつのところはやや高い段差があるため、見守りや付き添いを行っている。					
	86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所や自分のお部屋がわかるようにしたり、普段使用するものの場所を一定にし、混乱等がないように工夫している。					
	87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑や花のプランターがあり、職員と一緒に活動できるように支援している。また、ウッドデッキもあり、暖かく天気の良い日には外でお茶をしたり、ウッドデッキから地域の子供たちの活動を眺めたりできるようにしている。					

※ は、重点項目。

項目		自己評価	
		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ピアホームかたくりの里は、自然に囲まれ、ゆったりと安心して生活できるような環境づくりに努めております。フローリングのお部屋と畳のお部屋があり、また、全室にスプリンクラーが設置され、大きな窓からは日の光も入り、一人一人の生活状況や身体状況に合わせた安心感のある、明るく木のぬくもりが感じられる造りとなっております。ホームの前には畑もあり、職員とご利用者ができるところを一緒に作業し、収穫も行っております。畑で取れた野菜などは、献立に取り入れ、季節の旬のものを味わっております。また、くもん学習療法にも取り組んでおり、認知症状の緩和や、日常の楽しみ、コミュニケーションツールとして活用しております。ご家族との連絡も密にし、月1回の往診や必要時かかりつけ医に気軽に相談できるよう連携を図っており、安心して生活できるように援助しております。ご利用者、ひとりひとりがゆったりと、ご自分のペースで生き生きと生活できるよう、優しい声かけや柔軟な対応、また、自尊心に配慮した対応に努めております。月に1回、「家族通信」というものをご利用者ひとりひとりについて作成し、各ご家族に送付しております。写真を入れ、日頃の表情や活動が分かるように、担当職員が手作りでおこなっております。また、日々の記録も充実させており、身体状況だけではなく、毎日の表情や言動、思い等も記録し、スタッフが共有してケアに活かせるよう、また、統一したケアが出来るように努めております。ご家族への状況の報告、説明時にも役立っております。また、毎月末にケアプランについてのモニタリング(評価)を行い、課題があれば明確にし、次月への課題として取り組んでおります。その為、各職員のケアプランやご利用者一人一人に対する理解度も高まっております。